

地域の貴重な財産である憩いの森などを守り育てるため、管理活動に必要な知識と技術の習得を目指す講座です。座学と実習を交えて、草刈りや中低木の剪定技術などについて学びます。

第8回
〈樹木③〉

「森の樹木の特徴と剪定方法を学ぼう③(竹の管理編)」

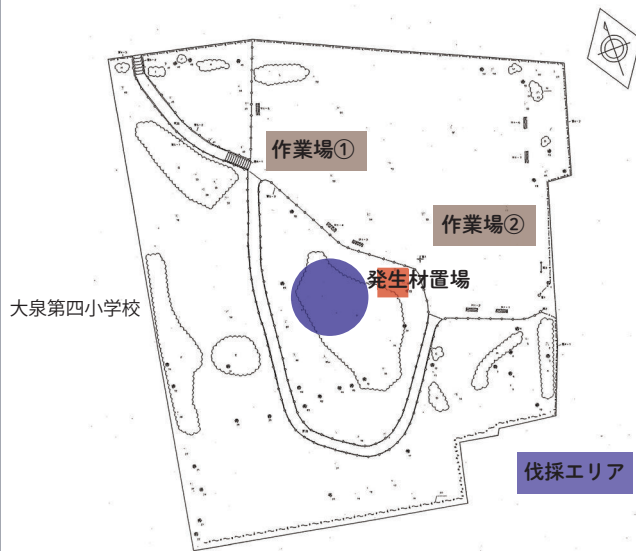
日時：令和7年1月17日(土) 9:30～12:30

場所：南大泉地域集会所(南大泉 5-26-19)

竹の子憩いの森(西大泉 1-22)



竹の特性と竹林管理について学びました。講義を受けたあと、森を確認し、竹の伐採の実習を行いました。また、レスプロソー等の電動工具の使用法や注意事項も学びました。



実習前



実習後



①伐採



②搬出



③枝払い



④玉切り



⑤仕上げ



レスプロソーでの玉切り

安全管理のポイント「竹の伐採」

竹の伐採は、剪定ばさみだけではなく、ノコギリやナタ、ハンマー、電動レスプロソーなど様々な道具を使用します。状況にあった道具を使うことで、よりスムーズに作業を行うことができますが、使い方を間違えたり、周囲への注意を怠ると大きな事故に繋がります。

作業をする際は事前にメンバーで道具の使い方を学び、確認しましょう。作業する際はまず、落下しそうな枯れ枝がないか、地面につまずきそうな石はないかなどを確認します。また伐採する際は倒す竹の真下に人がいないか確認および声掛けを行うことが重要です。特に、直径15cm、高さ15メートルあるような大きな竹の場合、伐採する前に、倒す方向、切る方向を確認し、作業チームで共有し、周囲にも伝えましょう。

みどりのまちづくりセンター

今回のキーワード「竹の活用」

今回の実習地で竹の伐採を行いました。竹は少し手を加えると、コップやたけふみ、花瓶など普段の生活にも使用できる形になります。また憩いの森、緑地などでは園路や柵として活用することもできます。森の中で出るものをごみとして捨てるのではなく、手を加えて再利用することも森を管理する上での楽しみだと思います。

今回の講習でも竹でコップなどを作成している方が多くいらっしゃいました。竹は伐採した後、そのままにしておくと1年ほどで割れたり腐朽します。竹を家などに持って帰った場合はお手入れをすることで長持ちさせることができます。

今後憩いの森等を管理する際は、憩いの森を活かす方法を考え、楽しく作業するようにしましょう。

(一社)練馬環境造園協会